

【結果と考察】

干渉無し条件における正答反応時間の平均値をベースラインに、各干渉がどの程度妨害効果を与えたかを示す尺度の一つである干渉指標 $((\text{干渉条件 RT} - \text{干渉無し条件 RT}) / (\text{干渉条件 RT} + \text{干渉無し条件 RT}))$ (Bruyer & Scailquin, 1998 参照) を各条件ごとに算出した (Fig.1) . そして、特定の条件間に関して (形態的情報の検出処理が反映されているであろう形異反応と、触感的情報の検出処理が反映されているであろう触感異異反応とをシンプルに比較するため、同反応は除外した) , あらかじめ設定した事前仮説 (ここでは紙面の都合により省略する) に基づく事前比較を行った .

1. 視覚的形態干渉から受ける妨害効果は、仮説で予想したとおり、触運動的触感異反応よりも、触運動形異反応の方が大きかった ($F(1, 23)=4.367, p < .05$) .

2. 視覚的材料干渉から受ける妨害効果は、仮説で予想したとおり、触運動的形異反応と触運動的触感異反応の間に差は見られなかった ($F < 1$) .

3. 触運動的形異反応に対する妨害効果に関しては、有意傾向ではあったが、仮説で予想した通り、視覚的材料干渉よりも視覚的形態干渉の方が強かった ($F(1, 23)=3.699, p < .10$) .

4. 触運動的触異反応に与える妨害効果は、視覚的形態干渉と視覚的材料干渉の間で差は見られなかった ($F < 1$) .

本研究で得られた結果から、触運動的材料表象と視覚的材料表象間にはオーバーラップは見られず、両者はある程度独立したものである一方で、触運動的形態表象と視覚的形態表象間にはある程度のオーバーラップが見られ、両表象を処理する共通の機構が存在する可能性が示唆された .

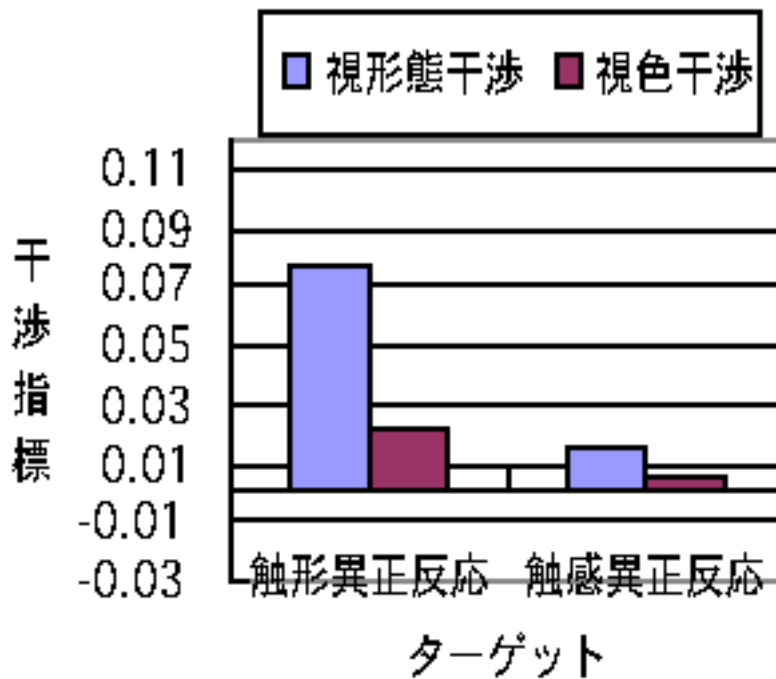


Fig.1 各条件における干渉指標